

生涯学習センターきらめきでは、多くの市民の皆さんがさまざまな講座を受講し、楽しく学習しています。今回は、初春にちなんだ4つの講座を紹介します。

生涯学習センター きらめき講座(実技講座)

いけばな講座「はな悠々」(I)

いけばなについて基本的なことを教えてください。

いけばなは、植物を媒体にして大自然と接することだということをまず知っていただきたいと思います。花を切るというのは生命をいただくわけですから、感謝の心を持って接することが大切です。

いけばなには基本花態があります。まず基本の型を身につけてから個性で自由な表現をすればいいのではないのでしょうか。基本花態は、流派やグループによって多少の違いはありますが、精神文化として基本理念に違いはありません。



花を生ける受講生

花器や花留にはどんなものがありますか。

花器は大きく分けて、水盤・コンポートのように低めで口に広がりのあるものと瓶・深鉢・寸渡などのように口が狭く高さがあるものに分かれます。このほか、創作的・現代的な花態を生けるときは、変形花器を使います。また、日常生活の中にあるもの、例えば、グラスや空き瓶、急須、



川原先生の作品



講師の川原先生



奥：長瓶 左：水盤 右：変形花器

かごなども花器になります。日用品の容器を布や紙、アルミホイルなどで隠して使ってもおもしろいですよ。

花材を留める道具としては、水盤・コンポートには七宝・剣山などが、寸渡などには配り木(又木)が使われ、瓶などには口の部分や内部の側面・底などに枝や茎をかけます。何回か練習するとうまく留めることができます。

花を選ぶときのポイントを教えてください。

花を選ぶときは、開いているもの、半分開いているもの、つぼみのものを選び組み合わせると生命と時の流れを表現できます。好きな花を決めたらほかの花材(枝・葉・花)を選び、取り合わせをします。日本には四季があるので季節の花材を選んで季節感を出すことも大切です。また、日本の伝統的な行事や儀式に生ける花材を知っておくと便利です。お正月には、松や千両、万年青などがよく生けられます。

大切なことは、楽しく生けて、いけばなが暮らしの中にあるということだと思います。

花をきれいに生けるコツはありますか。

いけばなは、主に枝・葉・花を用いて表現していくのですが、これらをうまく取り合わせて生けていくと流れを感じる作品になります。花材の性質、花材と花器との配色などもよく考え、「バランスの美」を表現してください。

花を長持ちさせる方法を教えてください。

花を長持ちさせる最も一般的な方法は、水の中で茎の切り口を切り落とす「水切り」という水揚げ方法です。ほかには、切り口をたたいたり、割ったり、焼いたり、煮たり、また、アルコール液に浸したり塩や焼きミョウバンをすり込む方法もあります。最近はお店で水揚げ剤を売っていますので、それを利用するのもいいでしょう。

実技講座の中からは、いけばなと和太鼓の講座を紹介します。

いけばな講座「はな悠々」(I)の川原先生には、花の選び方や花を長持ちさせる方法などを、和太鼓入門・和太鼓“基礎展開”の藤先生には、和太鼓の歴史や魅力などについてそれぞれ聞いてみました。

和太鼓入門・和太鼓“基礎展開”

和太鼓の歴史を教えてください。また、どのような目的で使われていたのですか。

和太鼓の構造上のルーツは中国、朝鮮半島に求めることができます。日本へは、飛鳥時代に仏教伝来とともに入ってきたのではないのでしょうか。宗教上の儀式に使われていたと思われる。日本の打楽器としては、天岩戸に隠れた天照大神を導き出すために桶を伏せて打ち鳴らしたのが最古のものだとの説があります。戦国時代になると、儀式などに使われていたものが、戦の場で使われるようになりました。自軍の統率をとるために、また、通信手段に利用されたりもしました。雨乞いや時刻を知らせるために使われていた時代もありました。今では身近な例として、お正月の行事で獅子舞が太鼓に合わせて踊ったり、また、各地の祭りにも欠かせないものになっています。

和太鼓の種類を教えてください。また、楽譜はありますか。

構造上から分類すると、長胴太鼓、桶胴太鼓、附締太鼓



発表会で挨拶する講師の藤先生

になるのでしょうか。長胴太鼓は、一本の木を輪切りにして中をくり抜き、両端に牛の皮を張り、鋏で打ち留めたもの。



左：桶胴太鼓 右奥：長胴太鼓
右手前：附締太鼓

桶胴太鼓は、杉板を円形に寄せ集めタガで締めて、両端の皮(牛か馬)をロープで締め上げたもの。

附締太鼓は、くり抜きの胴に皮をロープで締め上げたものです。



発表会(最終講座)で演奏する受講生(前期講座)

素材の木の分類は、ケヤキとケヤキ以外の木を総称している目有(クスノキ・シオジ・センなど)に分かれます。楽譜というものは昔はなく、口承でした。今は楽譜もありますが、言葉で十分伝わります。「テンテケテツク」「ドンドコ」「カラカラ」などと言えば、どこをどういうふうにしたかのがわかり、リズムとともに体で覚えられるように伝えていきます。

講座では幅広い年齢層の方々が受講されていますが、どのような練習をされているのですか。

この講座は高齢の方が何人か受講されていて、また、女性の受講生もたくさんいらっしゃいます。

回数は15回で期間も短いですが、特別複雑なことはしません。まず基本的な打ち方を練習し、簡単なリズムを覚え、最終的に短く簡単な曲ができるように仕上げます。基礎展開講座では、そこからバリエーションをつけて楽しみます。

和太鼓の魅力は何ですか。

圧倒的な音の響きでしょうか。ぜひ生で聴いていただき、CDやテレビなどでは感じることのできない響きを、体で感じてください。音楽とは、文字通り音を楽しむことです。むずかしいことは考えずとにかく楽しんでください。